

## 第 21 回 「五公五民」と今後の日本社会

2023 年 6 月 18 日

今回は「『五公五民』と今後の日本社会」についてお話しいたします。「五公五民」とは、江戸時代の農民の年貢の割合を表した言葉で、領主が 5 割（年貢）を収める場合を言います。即ち、農民が支払う税金が 50% というわけです。正確に言えば、国民負担率のことと考えればよいでしょう。2022 年（令和 4 年）度の国民負担率は財務省の発表によれば、47.5%（実績見込み）となりました。財務省の「負担率に関する資料」では、国民負担率は「租税負担及び社会保障負担を合わせた義務的な公的負担の国民所得に対する比率」とのことです。分かりやすく言えば、「国民が稼いだ所得に占める税金や社会保障費の割合」のことです。我々が稼いだ所得の約半分を国に取られる（勿論、国民はその恩恵も色々受けています）こととなります。これでは江戸時代の農民と同じだと話題になり、「五公五民」という言葉が話題のトレンド入り致しました。



それでは、国民負担率の推移を見ていきたいと思います。1970 年（昭和 45 年）度の国民負担率は 24.4%でした。50 年間で倍増したわけです。

昭和 45 年度（1970 年）	⇒⇒⇒24.4%
昭和 54 年度（1979 年）	⇒⇒⇒30.2%
平成 5 年度（1993 年）	⇒⇒⇒36.6%
平成 15 年度（2005 年）	⇒⇒⇒36.1%
平成 20 年度（2008 年）	⇒⇒⇒39.2%
平成 25 年度（2013 年）	⇒⇒⇒40.7%
令和 2 年度（2020 年）	⇒⇒⇒47.9%
令和 3 年度（2021 年）	⇒⇒⇒48.1%（ここまで実績）

令和4年度（2022年）⇒⇒⇒47.5%（実績見込み）  
（財務省「負担率に関する資料」を参考にして作成）

国民負担率が初めて30%に達したのは1979年（昭和54年）度でした。2006年（平成16年）度から徐々に上昇し、2008年（平成20年）度に39.2%となり、40%を超えたのは2013年（平成25年）度でした。34年かけて10%上昇いたしました。その後、2021年（令和3年）度に48.1%になり、僅か8年で8%上昇いたしました。急速な上昇です。今後も国民負担率は上昇を続けるものと思えます。

なぜ、国民負担率が上昇を続けているのでしょうか。今までは、それを主に国債発行（借金）で賄ってきたわけです。ところが、財務省によれば、2022年（令和4年）度末の普通国債残高は1043兆円になり、初めて1千兆円を超えました。2023年（令和5年）度末には1068兆円になる見込みです。この「普通国債」に加えて、一時的な資金不足を補うための「政府短期証券」や「借入金」を合わせた国の2022年（令和4年）度の「借金総額」は1270兆4990億円となり、GDP比250%を超える世界最大の借金大国となっています。国債発行（借金）をできるだけ抑えるためには、国民負担率を上げざるを得ないわけです。

毎年の国家予算の中で国債発行（借金）の占める割合はどのくらいになるのでしょうか。それでは、国の今年度の歳入について見ていきましょう。令和5年（2023年）度の一般会計歳入について、「財務省 令和5年度予算」を参考にして下記のように作成いたしました。

#### 一般会計歳入

★租税及び印紙収入⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒69兆4400億円

所得税⇒⇒⇒21兆480億円

法人税⇒⇒⇒14兆6020億円

消費税⇒⇒⇒23兆3840億円

（その他の主なものは次の通り）

相続税⇒⇒⇒2兆7760億円

揮発油税⇒⇒1兆9990億円

酒税⇒⇒⇒1兆1800億円

関税⇒⇒⇒1兆1200億円

たばこ税⇒⇒9350億円

印紙収入	⇒⇒9760 億円
★その他の収入	⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒9 兆 3182 円
★ <u>公債金</u>	⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒35 兆 6230 億円
一般会計歳入総額	114 兆 3812 億円

皆さんにとっては、所得税、消費税、酒税などが徴収される身近な税金だと思  
います。公債金とは「歳入の不足分を賄うため国債（借金）を発行して調達され  
る収入」のことです。今年度の国家予算のうち約 31%（35 兆 6230 億円）を借  
金で賄っています。これを繰り返し、年々借金が膨れ上がってきたわけです。日  
本は毎年、多額に上る国債を発行（借金）しないと予算が組めない状態になっ  
ています。

次に、令和 5 年（2023 年）度の一般会計歳出について、「財務省 令和 5 年  
度予算」を参考にして下記のように作成いたしましたので、見ていきましょう。

#### 一般会計歳出

★一般歳出	⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒72 兆 7317 億円
社会保障関係費	⇒⇒⇒⇒36 兆 8889 億円
社会保障関係費以外	⇒⇒⇒⇒30 兆 8428 億円
(このうち主なもの)	
防衛関係費	⇒⇒⇒⇒⇒10 兆 1686 億円
(防衛力強化資金繰り入れ含む)	
公共事業費	⇒⇒⇒⇒⇒6 兆 600 億円
文教及び科学振興費	⇒5 兆 4158 億円
★地方交付税交付金等	⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒16 兆 3992 億円
★ <u>国債費</u>	⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒25 兆 2503 億円
一般会計歳出総額	114 兆 3812 億円

社会保障関係費と国債費（借金返済等）で 62 兆 1392 億円となり、歳出のうち  
約 54%を占めております。これでは他の歳出を削減しようがありません。もう  
何をするにしても財源がないのです。もし、増税に加えて、財源の一つとして社  
会保険料への上乗せと併せて社会保障関係費を抑制する政策をとれば、国民（特  
に弱者）にその負担が重くのしかかるでしょう。「防衛費倍増」、「巨額に上る  
少子化対策（これで人口減少に歯止めがかかり、人口が大幅に増加するとは、私

は思いません。皆さんも考えてみて下さい)」、「その他の対策」でも毎年毎年、その予算が必要になってきます。1年限りではありません。Gender Gap 指数、世界デジタル競争力、国民一人当たりの GDP、平均賃金、最低賃金、公的教育支出、子供貧困率、社会科学系の博士号取得者数（どれも「教養講座」の中でお話しいたしました）など、どれも他の先進諸国と比べて日本の現状は芳しくありません。更に、借金総額が 1270 兆 4990 億円で、GDP 比 250%を超える現状の日本社会で、国民負担率がこのまま大幅に上昇していけば、国民はこの負担に耐えられるでしょうか。私はこのことを大変危惧しております。「六公四民」にだけはならないようお願いしたいものです。今までこの「教養講座」の中でお話してきましたが、今が、国民が真剣に日本社会の将来について考える「ラストチャンス」だと、私は思っております。皆さん、政治に関心を持ちましょう！

#### 追記

前回の「準備の継続は力なり」で、準備（練習、努力）の重要性をお話しいたしましたが、朝日新聞（4月26日）の「月刊バスケットボール企画」で、米プロバスケットボール NBA のブルックリン・ネッツに所属し、活躍中の渡辺雄太選手にインタビューしている記事がありました。それによれば、「僕の場合とはにかく準備ですね。それがすべてです。高校時代の恩師に準備の大切さを言われたきた。（中略）僕の場合、今の自分に必要なことを常に考えていた。NBA で生き残って行くために必要なのはスリーポイントとディフェンスだったので、そこをしっかりと磨こうと。そこを軸にしてぶらさず、やり続けることが、自分にとっての準備です。何かを想定しても、何が起こるかは分からない。だから、自分のルーティン、軸となることを定めるのが大事だと思います」（下線部筆者）と述べております。スポーツは結果を出さなければならない競技ですから、準備の継続の大切さを述べたものだと思います。「準備の継続は力なり」ですね。

（次回は 8 月 20 日ごろを予定しております）